

よつてみんさいカフェ

特性に配慮した活動を

「働く」を応援する仕事

あさひでは、地域貢献の一環として、サロンスペースを地域の方に開放し、利用して頂いています。

毎月第2金曜日には、竹原病院主催の『よつてみんさいカフェ』（認知症カフェ）が開催されています。

認知症の方やご家族、医療・ケアの専門職、認知症に関心のある方が集まって、交流を楽しんだり、情報交換や介護等の相談が気軽にできたり、認知症についての正しい知識を得られる場となっています。

そして、10月のカフェに私も参加させて頂きました。その内容は、①棒体操②参加者による竹原の名所の紹介③「箱庭づくり」の体験でした。まず最初に棒体操で体をほぐすことで、心もほぐれていき、話も弾みます。

その後、認知症の方と一緒に、「箱庭づくり」の体験をしました。自分の感情と向き合せて、砂の上に人や木などを置いていくのですが、置き方等には色んな意味があつて、体験された方は一様に「へー！そんな意味があるんじゃないか」と感心されていました。

今回参加してみて、このように専門的なことを楽しく気軽に話ができる場が、もつと地域に広がれば良いと思いました。

多機能型事業所あさひ

支援員 瀬古 昌弘



棒体操の様子



箱庭の説明

9月15日、初の試みとして「こだま運動会」を開催しました。今までにこだまで経験したことのない新しい活動の為、何をするのか不安に思われる方もいらっしゃいました。利用者さんのそのような思いに配慮し、普段行っているボール遊びを活用した玉入れ競技を取り入れたり、音楽を流して、運動会らしい雰囲気を感じられるように工夫しました。日々慣れ親しんだ得意な活動ということもあって利用者の皆さんも積極的に参加され、「こだま運動会」は大盛況のうちに終えることが出来ました。

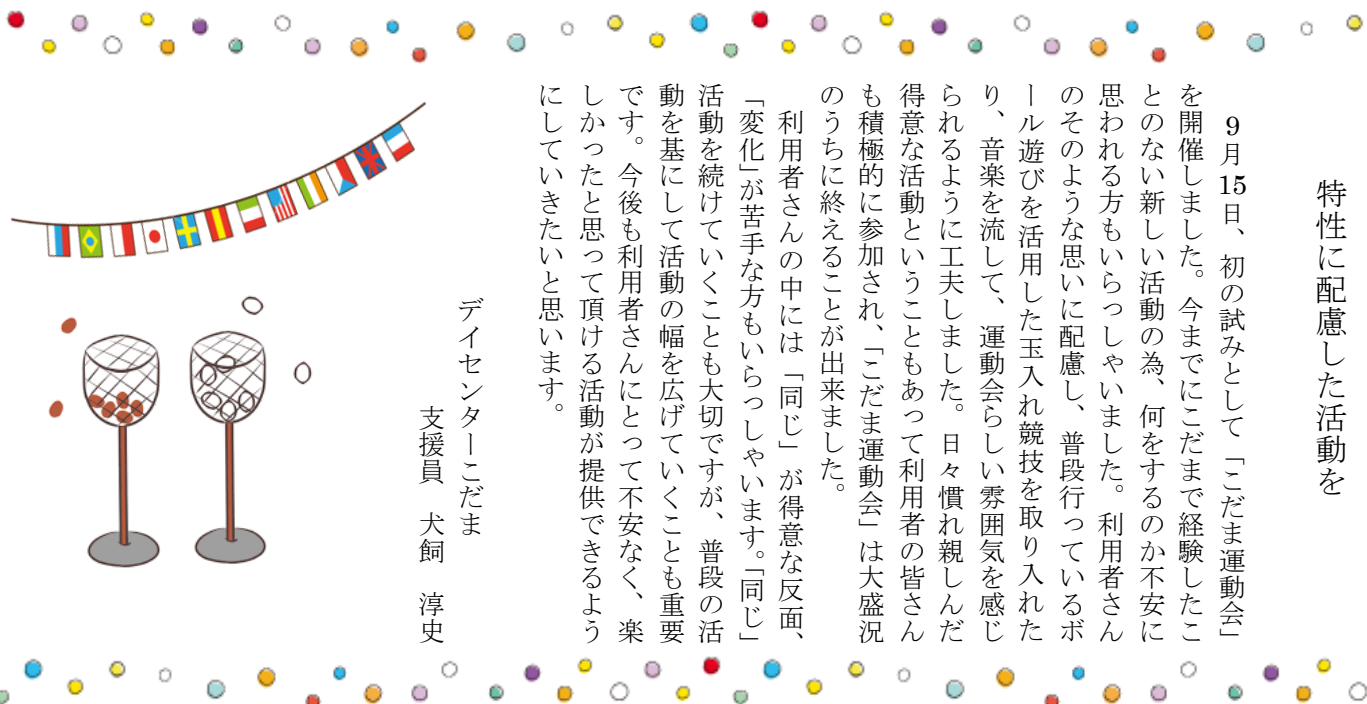
利用者さんの中には「同じ」が得意な反面、「変化」が苦手な方もいらっしゃいます。「同じ」活動を続けていくことも大切ですが、普段の活動を基にして活動の幅を広げていくことも重要です。今後も利用者さんにとって不安なく、楽しかったと思っ頂ける活動が提供できるようにしていきたいと思えます。

利用者さんの中には「同じ」が得意な反面、「変化」が苦手な方もいらっしゃいます。「同じ」活動を続けていくことも大切ですが、普段の活動を基にして活動の幅を広げていくことも重要です。今後も利用者さんにとって不安なく、楽しかったと思っ頂ける活動が提供できるようにしていきたいと思えます。

利用者さんの中には「同じ」が得意な反面、「変化」が苦手な方もいらっしゃいます。「同じ」活動を続けていくことも大切ですが、普段の活動を基にして活動の幅を広げていくことも重要です。今後も利用者さんにとって不安なく、楽しかったと思っ頂ける活動が提供できるようにしていきたいと思えます。

デイセンターこだま

支援員 犬飼 淳史



11月7日に行われた『就職準備フェア2018 in 東広島』に、企画運営スタッフとして参加しました。このイベントは、障がいのある方で、働くことに興味のある方が仕事を知り、さらに就労への意欲を高めてもらうことを目的としています。

その中で私は食事の盛り付け業務等の仕事を疑似体験できる「お仕事体験コーナー」を担当しました。参加者は、うまく作業ができないと悔しい顔をしたり、スタッフのアドバイスを聴き入ったりと、真剣に取り組まれています。

また、参加者から「もっと仕事の体験がしたい！」「就職してみたいな」という声があがったり、体験コーナーでの作業について積極的に質問されたりする方もおられました。そんな様子を見て私は、障がいのある方たちの「働く」という未来に、ほんの少しでも役に立てたのかなと感じました。

この就職準備フェアを通して、仕事の楽しさや喜びを知ること、就職への意欲が高まり、「将来になりたい自分」により近づくきっかけとなればとても嬉しく思います。

あおぞら工房

支援員 神野 健人



食事の盛り付け体験

次のステップに向けて

平成31年の新春を迎え、謹んで年頭の挨拶を申し上げます。昨年は甚大な災害が次々と続き、今年も明るい年となりません。心からお祈りいたします。

放課後等デイサービス事業所夕風は開設して5年が経ちました。この間、ご家族や地域の皆さまに何かと支えて頂いたことに心から感謝申し上げます。

振り返れば、当初「放課後等デイサービス」という言葉は知られていませんでしたが、今や東広島市内には20近くの事業所ができるまでになり、新聞紙面に用語解説付きで登場することも多くなりました。そういった中で事業所のあり方や支援の質が問われるようになり、私たちも試行錯誤しながら取り組んできた5年間でもありました。一人一人の特性に応じた活動内容を組立てることによって出来ることが増え、情緒の安定につながるようになったと感じています。様々な経験を積んで来たことが、実践の成果として評価いただけるようになり、やつと事業所の基盤作りができたのではないかと考えています。

保育や発達障害の専門性に加えて、大学で音楽療育士を取得した職員や、ミュージックケアを学んだ職員も加わり、療育活動の新たな段階に入ったと感じています。これからは、子どもが成長をするうえでとても大切な「感覚統合」の取り組みや「音楽療法」などに力を入れていきたいと思えます。情緒の安定、対人関係の調整力を向上させながら、自分の力を発揮して自己の生活を形成していきけるよう、奥行きのある支援に取り組んでいきます。

5年後の夕風10年目には、学童期から青年期・成人期へと、ライフステージを見通した支援ができる事業所となるよう努力し、皆さまのご意見をいただきながら、地域に必要とされる事業所を目指していきたいと思えます。これからもよろしくお願いたします。

にしのおいけ

社会福祉法人 平成会
住所 東広島市高屋町小谷 5001-5
TEL (082) 434-0405
FAX (082) 434-5599
メール heiseikai@nishinoike.or.jp
HP <http://www.nishinoike.or.jp/>
編集 (社福) 平成会 広報部
発行者 (社福) 平成会理事長 赤坂 秀則

第 87 号
(平成 31 年 1 月 1 日)



小谷秋の大収穫祭 餅つきの様子

放課後等デイサービス事業所夕風

管理者

上田 智子